

製品名: ニューロピリン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14620**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	NRP1
別名	NRP1; NRP; VEGF165R; Neuropilin-1; Vascular endothelial cell growth factor 165 receptor; CD antigen CD304
遺伝子 ID	8829.0
SwissProt ID	O14786
免疫原	抗血清はヒトニューロピリン-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 476-525

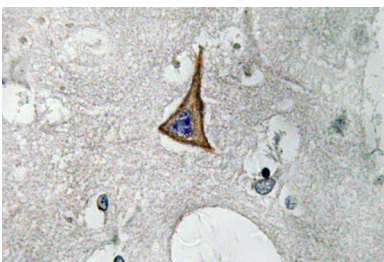
背景

この遺伝子は、細胞遊走を制御する様々なシグナル伝達経路に関与することを可能にする特定のタンパク質ドメインを含む 2 種類のニューロピリンのうちの 1 つをコードします。ニューロピリンは、補体結合ドメイン、凝固因子 V/VIII ドメイン、およびメブリンドメインからなる大きな N 末端細胞外ドメインを含みます。これらのタンパク質はまた、短い膜貫通ドメインと小さな細胞質ドメインも含みます。ニューロピリンは多くのリガンドおよび様々な種類の共受容体に結合し、細胞の生存、遊走、および誘引に影響を与えます。ニューロピリンが結合するリガンドおよび共受容体には、血管内皮増殖因子 (VEGF) やセマフォリンファミリーのメンバーなどがあります。この遺伝子には、異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2011 年 10 月]、機能: 膜結合型アイソフォーム 1 は、心血管系の発達、血管新生、特定の神経回路の形成、神経系以外の器官形成に関与する受容体です。セマフォリンの化学反応活性を媒介します。セマフォリン 3A、PGF の PLGF-2 アイソフォーム、VEGF の VEGF-165 アイソフォーム、および VEGF-B に結合します。KDR との共発現は、KDR への VEGF-165 の結合の増加と走化性の増加をもたらします。VEGF 誘導性血管新生を制御している可能性があります。機能: 可溶性アイソフォーム 2 は VEGF-165 に結合し、細胞への結合を阻害するようです。また、VEGF-165 を隔離することでアポトーシスを誘導する可能性もあります。セマフォリンファミリーのさまざまなメンバーにも結合する可能性があります。その発現は、血管の数と完全性に悪影響を及ぼします。類似性:ニューロピリンファミリーに属します。類似性:1 つの F5/8 タイプ C ドメインを含みます。類似性:1 つの MAM ドメインを含みます。類似性:2 つの CUB ドメインを含みます。類似性:2 つの F5/8 タイプ C ドメインを含みます。サブユニット:NRP2 とのヘテロ二量体 (おそらく)。PLXNB1 に結合します。組織特異性:アイソフォーム 1 と 2 の発現は重複しないようです。アイソフォーム 1 は、異なる組織の血管で発現しています。発生中の胚では、主に神経系で見られます。成体の組織では、心臓と胎盤で高度に発現し、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓では中程度に発現し、成体の脳では低く発現しています。アイソフォーム 2 は、肝臓の肝細胞、腎臓の遠位尿管および近位尿管に存在します。

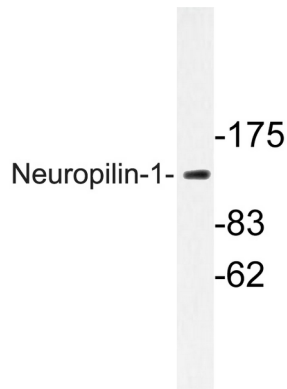
研究分野

軸索ガイダンス;

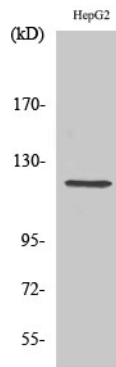
画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織におけるニューロピリン-1 抗体の免疫組織化学分析。



Neuropilin-1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



ニューロピリン-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析